

令和6年第1回高鍋町総合教育会会議 議事録

- 開催日時 令和7年2月25日（火）午前9時00分～午前10時55分
- 会 場 高鍋町教育委員会 大会議室
- 出席者 黒木 敏之 町長、奥村 昌美 教育長、野崎 憲次 教育長職務代理者、
四角目 久美子 委員、岩崎 晃子 委員、榎本 憂子 委員、
横山 英二 総務課長、山下 美穂 地域政策課長
【教育総務課】
岩佐 康司 教育総務課長、原田 誠 教育対策監、寺原 一哲 教育総務課長補佐、
三枝 敏郎 教育総務課主幹（建設管理課長補佐）、秋山 俊介 指導主事
【社会教育課】
濱本 明俊 社会教育課長、佐藤 英伸 社会教育課長補佐、
平木 将司 社会教育課長補佐、松行 弘晃 社会教育課長補佐、
瀬川 芳一 中央公民館副館長、長尾 広則 高鍋図書館副館長

1 開会（午前9時00分）

2 町長あいさつ

本日は次期高鍋町教育大綱の見直しに向けて意見交換を行いたい。急激な人口減少や少子高齢化が進んでいるが、「人口減少はチャンス・希望である」と捉えている。歴史的に見れば明治維新以降に急増した人口が適正化していく過程であり、コンパクトな町だからこそできる、きめ細やかな教育のあり方を模索したい。

3 議事

(1)趣旨説明「次期教育大綱の策定に向けて」

現行の教育大綱が令和6年度で終期を迎えるため、来年度からの新大綱策定に向け、教育総務課長、社会教育課長が資料に基づき説明

(2)協議（意見交換）

①これからの時代にふさわしい学校づくりについて

【野崎委員】

小学校は地域住民の愛着や見守りの目があるため、少人数・小規模の強みを活かした「地域に根差した教育」を模索し、2校を維持する方向も考えられる。一方で、中学校は教科担任制や教員定数の関係から、一定の適正規模がなければ教育の質を保障しにくくなる懸念がある。

【岩崎委員】

保護者の視点としては、共働き世帯が増える中で災害時も含めて「学校が安全・安心な地域

の核」であることが大前提。また、1人1台端末（タブレット）等の活用が進む中、教室が薄暗く子供の視力低下が懸念される場面があった。多様な学びや横断的な学習に対応できる、ゆとりある多目的な学習空間の整備を望む。

学校の一部をコミュニティセンター化し、地域住民も利用できる施設にすれば、高齢者との交流やキャリア教育の場にもなるのではないかな。

【四角目委員】

児童生徒は確実に減少していく。今は学校の長寿命化の計画があるが、長い目で学校の整備を計画する必要がある。

人口が減少していく中で、延岡市では学校と公民館機能を一体化させた事例がある。

【榎本委員】

タブレット導入によって空いたパソコン室などの設備や空間を、地域住民の学びや交流の場、放課後の子供の居場所として開放する仕組みも有効

【奥村教育長】

令和13年度には西小で「1学年1クラス」の状況が現実味を帯びてくる。これからの時代の授業は一斉授業ではなく、個別最適な学びと協働的な学びを同時に展開するため、多くの支援員や教員が必要。他地区では小中一貫の義務教育学校への統合で教員数を確保する動きもある。高鍋町としても人数減少のメリット・デメリットを精査し、検討会での議論が必要。

高校再編時も地域からの反対は強かったが、結果として手厚い教育環境が保障された。給食センターのあり方やプールの共同利用なども含め、財政面・機能面を総合的に勘案しなければならない。

【黒木町長】

児童生徒数の減少は予測よりも早いスピードで進んでいると感じる。今後の長寿命化や学校配置の計画は、10年先を見据えた長い目で進めるべき。将来的に小学校1校、中学校1校という規模感も視野に入るのではないかな。無駄のない計画を早期に決定する必要がある。

②本町の歴史や風土を生かした教育と地域の未来を担う人材の育成について

【榎本委員】

小中高でもっと交流があるとよい。他自治体では交流が行われている事例がある。

【岩崎委員】

高鍋高校での教育実習生の話が子供たちの心に非常に響き、前向きに将来を考えるきっかけになっている。小中高間の交流をもっと活性化させ、高校生が小学生に教えるような環境があれば郷土愛も育まれるのではないかな。小さい町だからこそ、高校生や地域住民と連携した「人

づくり」の教育ができるのではないか。

【四角目委員】

子どもたちが高鍋の歴史を知らない。広く深く知ってもらうために、都城市の事例を参考に「高鍋町歴史検定」のような認定制度を小中学生や一般向けに実施してはどうか。

【野崎委員】

高鍋の小学校には「正座・礼儀・挨拶・道を譲り合う」といった独自の素晴らしい伝統や明倫堂の教えなどが、日常生活の中に今も息づいている。それらを今後も活かしていく教育が必要ではないか。

【奥村教育長】

コロナ禍で途絶えていた小中高の連携を復活させたい。今年度からは高鍋高校の探究活動として、小学生と一緒にまち歩きを行う取り組みを行っている。また、深刻な教員不足への対策として、将来教師を目指す高校生が夏休みに小中学校へ勉強を教えに行くような取り組みを行いたい。

町の歴史を教材化し、総合的な学習の時間の中などで時間を確保して、しっかり学ばせる仕組みを作ることが重要。

【黒木町長】

東小学校、東中学校、高鍋高校は物理的にも近く、一体的な教育ゾーンにできる。小中高の間で交流が行われるとよい。文教のまちらしい伝統のある教育を積極的に行っていくことが重要。

③これからの時代にふさわしい社会教育環境づくり

【榎本委員】

中央公民館の老朽化が進んでいるが、単に壊して建て替えるだけでなく、会議室やカフェなどが一体となった施設を作るともっと人が来るのではないか。

【岩崎委員】

都城市の図書館のように、遅い時間まで開いていて高校生が部活帰りに勉強できるような魅力的な空間が理想。現在の中央公民館のホールは、日常的なイベントでは広すぎて空席が目立つ。今後はより使い勝手の良い小・中ホール規模でホールを整備するといったのではないか。

高鍋神楽については、舞うのが夜なので子どもたちはなかなか見る機会がない。子どもたちが見る機会があるといったのではないか。

歴史教育・地域学習の面において、VRやARといったデジタル技術を活用し、子供たちが自分で調べた内容がタブレットを通じて可視化されるような環境ができれば、先人たちの生き

方に学ぶ事業につながる。

【四角目委員】

二の丸（舞鶴公園）を人が集まる場所に整備するといひ。

【野崎委員】

二の丸（舞鶴公園）を中心に、観光ステーションや物産販売所を設けるなどして、そこから歴史散策コースへ出発できるような仕組みを作れば、人が集まり、ボランティアなど様々な人が活躍できる場にもなる。

自治公民館への加入率が低いことについては、公民館で子どもたちに何かをしてあげて、子どもたちを巻き込んでいけば、公民館の活性化に繋がるのではないか。

【濱本社会教育課長】

持田古墳群からの出土品の整理・保管場所の確保が課題となっている。空き倉庫の活用などを検討している。

神楽については、子どもの頃から触れる機会を増やしていきたい。

【奥村教育長】

中央公民館は小学校、中学校も活用できるような規模を考え、さまざまな機能をもたせて整備することが重要。また、マンネリ化したイベントを精査し、町民の真のニーズをリサーチしなければならない。使い方等も含めて懇話会を立ち上げ議論しなければならない。

【黒木町長】

中央公民館はさまざまな機能をもった施設として整備し、人が集まる複合的な交流拠点として再生させるチャンスと捉えたい。

高鍋神楽の後継者（舞手）がいない。子どもが触れる機会があるとよい。

自治公民館の加入率が減少していることは大きな問題であると捉えている。

4 閉会（午前 10 時 55 分）